



女子ソフト悲願の金メダル！ 星野ジャパン惨敗！



夏休み中の話題と言えば、北京五輪ですが、私が一番うれしかったのは、女子ソフトボールチームの悲願の金メダル獲得です。また、一番ショックだったのは星野ジャパンの惨敗でした。星野監督は「金メダル以外考えていない」と豪語したわりには惨憺たる結果に終わりました。

星野ジャパンには、素人の私が見てもメンバーの選に大きな誤りがあったように思います。選手は小粒で、中堅の実力派選手がほとんど見受けられません。例えば巨人の小笠原、ソフトバンクの松中・小久保など日本を代表する迫力あるロングヒッターはもっといました。

投手でもパリーグの勝ち頭、楽天の岩隈などが選からもれています。同じチームの田中を選ぶことなどキャリア・実績などから考えればありえないことです。野球は北京五輪を最後にオリンピックの競技種目から除外されます。それを考えると**勝負にこだわる人選**をすべきだったと思います。

次に星野監督の**選手起用**にミスが多くあったように思います。まず、中日の岩瀬投手の起用法です。彼は日本を代表するストッパーですが、今年は調子が悪く、日本のペナントレースでもよく打ち込まれていました。その彼をあえて五輪メンバーに選ぶのであれば、彼の従来の登板スタイルを崩しては十分に彼の力を発揮できません。岩瀬投手のペナントレースの登板は、ほとんどの勝ち試合のストッパーで、1イニングしか投げていません。その彼は、北京五輪では、抑えにつなぐセットアッパーを任せられ、負け投手となった試合は、すべて同点の場面での登板で、そのうち2試合は、回をまたいで2イニングを投げさせられ、その2イニング目のいずれにも失点しています。岩瀬投手は中日では、**勝ちパターンで力を発揮する投手**であるという認識に欠けています。それもメダルのかかった国際試合、同点で登板する岩瀬投手の緊張は私たちの想像をこえるものだったと思います。

また、本来ライトを守っていた西武のGG佐藤選手を慣れないレフトに起用し、佐藤選手は試合を決するようなエラー(それもトンネルや落球などの恥ずべきエラー)を3つもおかしちゃいま

た。この起用も指揮者としては考えられないことです。レフトとライトでは打者の放つ打球の回転が全く違います。ましてやボールは馬皮の重い国際球、打たれた打球は微妙に変化するのです。外野の守備位置を替えるのであれば、メジャーリーグのイチローがライトからセンターに回ったこともあるように、ライトからセンター、レフトからセンターの入れ替えはあるのですが、レフトからライトへの急な入れ替えは考えられないことです。

敗因には選手の**ハングリー精神**の欠如もありました。日本の選手団の団長が五輪終了後、星野ジャパンに苦言を呈したように、選手はみな選手村には入らず、5つ星の高級ホテルでVIP待遇。それに1週間あまり合宿をして、オリンピックで勝とうなんて甘すぎます。優勝した韓国は、国内リーグを一時中止して、選手をオリンピックだけに集中させ、選手団は一オリンピックに出場する一選手として選手村に入り、韓国の他の競技の選手との一体感もありました。年棒は巨人の李を除いて、6000万円が最高の選手団。勝てば兵役が免除されるなどの特典もあり、勝つための執念はすさまじく、まさに必死です。

私は星野ファンで、特に巨人戦で闘志丸出しに向かう姿勢が大好きでした。しかし、今回の北京五輪ではそんな姿は少しも見えませんでした。ベンチで座って試合を見つめる星野監督には何の魅力も感じません。「闘将」という彼の代名詞はもはや死語になっています。彼も監督を退いてから時経ち、現場感覚が薄れてしまっているのでしょう。コーチ陣すべても現場を離れている評論家の集まりで、仲良しクラブと酷評されています。試合終了後も「審判のレベルが低い」とか、「屋間の試合で」などと言い訳をしているのも見苦しい限りです。

来春第2回WBCがあります。私は王・野村といった現役の監督が指揮を執るのが最良の方法だと思います。イチローを中心としたチームで鬱憤を晴らし、日本の野球ここにありと世界に訴えてもらいたいものです。



(塾長 細井俊彦 ホームページに加筆修正)

■休業日と振替日のお知らせ

9月は国民の祝祭日が2日もあります。エクシードでは、祝祭日は休業とし、第5週の月末に振替えて授業を行っています。

★休業 9/15(月) 敬老の日
9/23(火) 秋分の日

☆振替 9/15 敬老の日→9/29(月) 9/23 秋分の日→9/29(火)

■高校入試特別講座『中3土曜特訓ゼミ』始まる

ご承知のように、2005年度より調査書(内申書)が絶対評価となり、また加印学区に複数志願制・特色選抜制が導入されました。これに伴い、総合学科の加古川南高校・単位制の加古川北高校の推薦入試の**受験倍率が2倍近く**になるなど推薦入試(特色選抜も含む)受験志向の生徒が増えてきました。

その一方で、内申点が絶対評価になったことにより、**内申点による学校間格差・生徒評定差は従来に比べて少なくなりました**。これに反して学力検査にかかるウェイトがかなり大きくなったように思われます。**エクシードではこのような状況の中で、入試に必要とされる実力を磨き、確かな学力を身につけるため、中3生を対象に「中3土曜特訓ゼミ」を9月より開講しています。**

「中3土曜特訓ゼミ」では、入試出題頻出分野のテーマ別学習を実施し、出題傾向の高い問題に的を絞って演習を進めます。例年この講座に参加している生徒は、かなりの成果を得ています。

この講座は月3回実施します(原則として第一土曜は実施しません)。授業は生徒の志望校・習熟度に応じて3つのクラスに分け、わかるまで、できるまで徹底して指導します。時間はいつでも午後1時30分から5時30分です。9月の「中3土曜特訓ゼミ」は宝殿教室は32名・別府教室では30名の生徒が参加しています。

「中3土曜特訓ゼミ」で成すべき準備を整え、入試で持てる力を出し尽くした者が、最後に合格を勝ち取るのです。「人事を尽くし天命を待つ」一緒に頑張りましょう。

◎9月受講日(体育大会の実施日の違いによりやや変則的になっています)

6日(文系科目) 英国社英語はリスニング実施

13日(理系科目) 数理別府教室・宝殿教室(神吉中・志方中・両荘中)

20日(理系科目) 数理宝殿教室(宝殿中・鹿島中・竜山中)

27日(文系科目) 英国社英語はリスニング実施



◎第5回「エクシードボーリング大会」のお知らせ

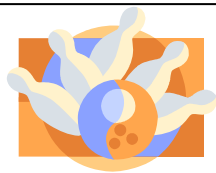
9/28(日) 参加人数70名予定

場所 ラウンドワン加古川店(明姫幹線 尾上)

午後1時半～3時半(4ゲームトータルペアマッチ)

参加費 1,000円

表彰 第1～5位・10位・15位・20位・25位・30位・35位・40位ブービー賞・特別賞・塾長賞など多数・また全員に参加賞があります。



◎授業研修から学んだこと

重延 新(文系講師)

今日、他の講師の先生の授業を見せていただき、授業で自分に不足しているものが見えてきました。まず、講師の先生方は、**生徒それぞれの個性や性格に合わせて指導のアプローチのしかたを変えていること**に気づきました。例えば言葉使いの面では、消極的な生徒に対しては、柔らかい口調で接しており、時に言葉だけでなく、ジェスチャーを交えている姿が印象的でした。また、うまく生徒の口から言葉を引き出すように導いていたのが自然に感じられました。

今回の研修を通して、私の授業は、ややワンウエーになっている傾向にあることに気づかされました。先生方から学んだ一番の収穫は、生徒のほうからレスポンスを引き出すように心がけて授業されていることです。

私はエクシードの講師になって「チームワークの大切さ」を痛感しています。指導形態は個別指導ですが、自分の担当生徒のことだけを考慮して授業をすれば、他の生徒、先生の学習進行を妨げることになります。研修時「**目配り・気配り**」そして「**心配り**」の大切さを学びました。ただ単に授業をするだけでなく、これらのことを常に心がけていきたいと思います。そして、何より学習指導者としてトータル的なスキルアップを目指していきます。



■2008年度私立中学・高等学校進学説明会開催される

9月7日(日) 姫路商工会議所2F 大ホールで、播磨民間ネットワーク主催の私立中高進学説明会が開かれました。

当日は、3つのブースと1つのミニ説明会に参加すると、図書券がプレゼントされるスタンプラリーなどがあり、約800名の生徒や父兄でにぎわいました。

エクシードからは私立中学受験者やご父兄が訪れ、熱心に耳を傾けていました。今年は、明石高専や四国の愛光学園など新しく出展に参加する学校も増え、昨年以上の盛り上がりを見せました。中1・2年の塾生の皆さん、来年は是非参加してください。

播磨民間ネットワーク(通称ペンハリマ)は、姫路・加古川のみならず岡山・神戸など広い地域の塾が集まりネットワークを作って様々な活動をしています。その活動の一環として今回の私立中高説明会があるのです。

エクシードのホームページともリンクしていますので、播磨民間ネットワーク(通称ペンハリマ)のホームページもぜひ一度ご覧下さい。

www.penharima.com

